

ごあいさつ



理事長

大橋 宏

平素は、私ども豊田信用金庫に対し格別のご愛顧を賜りまして、誠に有難く厚くお礼申し上げます。ここに当金庫の2024年度の事業内容をお伝えする「TOYOSHIN REPORT 2025 豊田信用金庫の現況」を作成しましたので、ご報告させていただきます。

さて、2024年度の経済動向を概観いたしますと、ロシア・ウクライナ情勢の長期化や中東情勢の緊張等地政学的リスクの高まりに加え、米国の金利高止まりによる円安進行など、複数の外部要因により経営環境に大きな影響を受けました。また、国内では物価上昇に賃金の伸びが追いつかず個人消費の抑制につながり企業活動に影響を及ぼしました。一方で、円安により増加するインバウンド需要や賃金上昇の兆しが見えはじめ、価格転嫁の好循環が強まりつつあることは、金融政策の正常化への足掛かりとなりました。

2025年度に入り、足元では米国の関税・為替政策により、世界的に市場環境が目まぐるしく変化しており国内の金融政策の調整も想定されます。今後も、物価、賃金、市場金利等の経済指標を注視しながら日々変化する収益環境に適切に対処してまいります。

こうした経営環境の中、当金庫は地域の皆様にご満足いただける金融商品、サービスの提供に努めてまいりました。

新規商品につきましては、投資信託6商品（「ワールド・インフラ好配当株式ファンド(毎月決算型)」、「しんぎん日米半導体株ファンド」、「FANG+インデックス・オープン」、「ワールド・インフラ好配当株式ファンド(成長型)」、「MHAM新興成長株オープン」、「日経平均高配当利回り株ファンド」）の取扱いを新たに開始いたしました。

新規業務につきましては、従来の電子記録債権「とよしんでんさいサービス」に加えてより手軽にさまざまな端末からでもご利用が可能となる「でんさいライトサービス」の取扱いを開始いたしました。さらに、「とよしん投信インターネットサービス」についてより見やすく快適にお使いいただけるよう新機能を追加しリニューアルをいたしました。その他、「将来のための代理人予約サービス」や「来店予約WEB受付サービス」の取扱いを開始いたしました。今後もお客様の利便性向上に努めてまいります。

業績面を見ますと、預金につきましては期末残高で1兆8,873億円(前期比592億円3.2%増)となり、貸出金につきましては同じく9,546億円(前期比311億円3.3%増)となりました。これに伴い、預貸率は期末残高において50.58%と前期比0.06ポイントの上昇となりました。

収益面では、引き続き物価高、資源高等により影響を受けた事業者の皆様への継続支援ならびに住宅ローン等の供給に努めた結果、貸出金利息収入が前期比5億円増加いたしました。また、市場金利の上昇に伴い預け金利息収入が前期比6億円増加したほか、株式相場の上昇局面を捉えた機動的な売買により株式売却益が6億円増加、投資信託の基準価格上昇や新NISA制度の開始を背景として預かり資産販売が堅調であったことから役務取引等収益が1億円増加いたしました。

費用面では、預金支払利息が前期比20億円増加しました。また、ゼロゼロ融資の利子補給及び返済据置期間の終了や物価高騰に起因する事業者のお客様の経営状況悪化に伴い個別貸倒引当金繰入額が4億円、一般貸倒引当金繰入額は5千万円増加しました。

以上から経常利益は38億円(前期比8千万円2.2%増)となりました。また、当期純利益は28億円(前期比1億円4.1%増)となりました。

2025年度につきましても前年度を初年度とする中期経営計画「Challenge for TX(とよしんトランスフォーメーション)2024」に引き続き取組み、ビジョンとする「これからもずっととよしん」のもと、お客様に選ばれる金庫、職員が働きたいと思う金庫、地域とともにあり続ける金庫を目指してまいります。特に重点取組項目として、(1)「金融仲介機能とお客様本位の業務運営の推進による積極的なお取引先様支援」、(2)「自ら学び考え行動する人材育成と全職員が活躍する組織づくり」、(3)「リスク管理態勢の高度化」を進め、各種経営課題や計数目標に挑戦し、地域金融機関としての強固な経営基盤を確立してまいります。

地域の皆様には、引き続きなお一層のご支援ご鞭撻を賜りたく、謹んでお願い申し上げます。

2025年7月